

# 林業技術センターの 活動内容について

センター長 松田 方典

## はじめに

林業技術センターは、工業・食品製造・農林水産業・保健環境の研究を行う広島県立総合技術研究所の一機関として、他センターとも連携を図りながら、県内の林業・木材産業振興や森林環境の保全を図るための研究を行っています。課題解決やイノベーション創出のための支援を行うことで、森林所有者や事業者の方々の所得や生産性の向上を図ることを目指しています。

その中、当センターでは次の3つのアプローチを重視しています。

第一は、顧客とのコミュニケーションの強化です。林業・木材産業事業者等への訪問や技術相談の聞き取り、当センター利用者からのアンケート調査等を通じて県内のニーズを集めます。

第二は、顧客起点での課題解決に向けた、迅速かつ満足度の高い

支援の充実です。ニーズに基づいた事業者等との共同研究や受託研究などを通じて、技術的課題への解決策を提案する「ソリューション提案型」支援を行います。また、センターの新技術を早期・確実に広めるため、セミナーの開催や事業局・関係団体が主催する研修会に職員を派遣します。

第三は、課題解決を支える技術基盤等の強化です。研究部門や設備等を持たない事業者に対して、設備利用や依頼試験などに必要な機器設備の計画的な更新・修繕を進めます。

また、農林水産局が取り組む「ひろしま未来チャレンジビジョン 農林水産業アクションプログラム（第二期）」と連携して、研究成果の事業化を進めます。

今年度の具体的な試験研究の内容は次のとおりです。

## I 試験研究課題

### ① 課題解決研究（単県）

○「早生樹種」コウヨウザンの効率的な増殖・育成・利用方法の開発（2018～2020年度）  
昨年度に引き続き、コンテナ苗の育苗技術の開発（写真1）を行うとともに、庄原市の成木林の詳細調査による県内林地での成長予測・生育適地判定、LVL・集成材等の試作・強度試験等を行います。



写真1 コウヨウザンコンテナ苗

### ② 共同研究（単県十民間資金）

○「CLT施設と木材乾燥システムを使った木材乾燥技術の開発」（2018～2019年度）  
昨年度に引き続き、ロシアブラスやソゴゴなど里山林未利用樹種活用のための簡易な低温乾燥設備の開発を進めます。今年度は設置した設備を稼働させ、性能評価を行うとともに、材料ごとの乾燥スケジュールの開発や乾燥材の評価等

を行います。

### ③ 基盤研究（単県）

今年度は、「コウヨウザンの少花粉品種選抜のための雄花の着花状態調査」、「センダン等早生樹種の育苗の研究」、「小型無人機（ドローン）」や画像処理を活用した森林作業道測量技術の開発、「ネズ等里山未利用樹種の活用」（写真2）、「BAP（植物成長物質）」によるクロマツ着花促進」等の研究を予定しています。



写真2 ネズの球果とそれを利用したジン

【林業技術センターホームページ】 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/33/1219628260277.html>

## ④ 受託研究「共同研究含む」（民間資金等）

県内外の事業者等からの受託及び共同による研究に取り組みます。

今年度は現在のところ、松くい虫の林業用薬剤試験、コウヨウザンコンテナ苗生産マニュアル作成、コウヨウザン優良個体の選定等の研究を予定しています。

## ⑤ 競争的研究資金（国費）

研究課題の公募型制度による競争的研究資金を活用して、国の研究機関や企業と連携した研究に取り組みます。

今年度は、「スギ等の長尺材の評価技術の開発」、「コウヨウザンの採種技術の開発及び製材品の評価」、「コウヨウザンの下刈省略に向けた植栽密度試験及び効果的な野兎害対策手法の開発」の3課題の研究を予定しています。

## II 行政支援事業

行政施策の推進に対応した技術支援を行います。

### ① 調査事業

自然環境課と連携し、ツキノワグマ生息域内での主要なエサ植物

の着花結実状況調査等を実施します。

## ② 広島県優良種苗木木育種事業

林業課と連携し、松くい虫抵抗性マツの採種圃管理・種子採種・接種検定、スギ・ヒノキの優良種苗確保のための採種圃整備・種子採種・次代検定林の調査等を実施します。

## III 技術支援

林業技術センターでは、県内外の企業・団体に対する技術支援として、次の項目について有料で実施しています。

### ① 技術的課題解決支援事業（ギカジ）

利用者からの依頼に応じて、課題の検討を行い、解決のための技術支援レポートを交付します。今年度も、木材試験等に関連した実施を予定しています。

### ② 設備利用及び依頼試験

当センターでは、県内外の企業・団体等からの要望に応じて、木材実験棟の五軸モルダールヤタロスカットソーのような木材加工機械やホットプレスなどの設備利用を受け入れています。また、製材

品の曲げ強度や引張強度など、材の性能に関する依頼試験も実施しています。

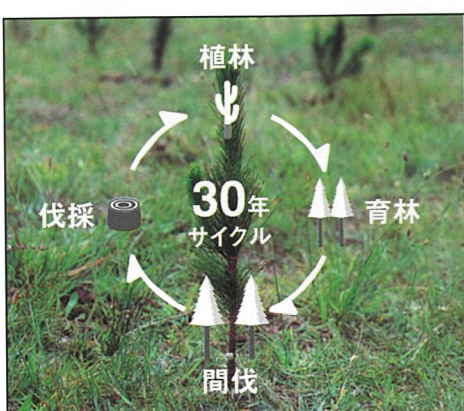
## 研究成果発表会について

平成30年度の研究成果発表会は2月8日に開催し、岐阜県の合同会社ツバキラボ代表の和田賢治氏による特別講演『ものづくりとまちづくりの掛け算で地域の価値を高める』〜里山の「アベマキ学校机プロジェクト」が目指す未来〜及び口頭発表を2課題、ポスター紹介・展示交流会等を行い、150名の参加をいただきました。

## おわりに

当センターでは、研究開発や技術支援の成果を皆さまに広く活用していただけるよう早期の技術移転に努めているところです。

また、紹介しました受託・共同研究、ギカジ、設備利用及び依頼試験等については、随時対応していますので、当センター技術支援部（電話番号0824（63）0897（直通））までお問い合わせください。



**WOODONE**

## 30年先を見つめて...

植林、間伐、伐採、そして再び植林。ニュージーランドの「ウッドワンの森」では輪伐システムを取り入れ、森の再生に積極的に取り組んでいます。森林資源を減らすことなく、30年かけて育てたニュージーパイン®を木質建材として有効利用しています。

本社 広島県廿日市市木材港南 1-1 〒738-8502  
TEL.0829-32-3333 <https://www.woodone.co.jp/>

電話 **ウッドワン**